

二二五九番

秋萩あきはぎの 上うへに白露しらつゆ 置おくことに 見みつつそ偲しのふ
君きみが姿すがたを

二二六〇番

我わ妹子ぎもこは 衣ころもにあらなむ 秋風あきかぜの 寒さむきこのこ
ろ 下したに着きましを

二二六一番

泊瀬風はつせかぜ かく吹ふく夕よひは 何時いつまでか 衣片ころもかたし敷しき
我あがひとり寝ねむ